

越谷市文化連盟

平成19年度

『こしがや文化芸術祭』

平成20年2月24日（日）

NPO法人・越谷市郷土研究会 展示部門出品紹介

於 越谷コミュニティセンター ポルティコホール

『越谷市内の古道』

『今はなき不動道』

『新川と岩槻古道—新川は古綾瀬川だった—』

加藤 幸一

新川と岩槻古道

—新川は古綾瀬川だった—

加藤幸一

新川は古綾瀬川

綾瀬川の北側に平行して走っている道路が県道蒲生岩槻線である。この道に沿って流れる「新川」は、江戸時代は「古綾瀬川」とも呼ばれていた。かつては、綾瀬川の本流であったと思われる。「新川」は、当ても旧越巻村（現、新川町）、旧七左衛門村（現、七左町）、旧大間野村（現、大間野町）と流れ、綾瀬川に注いでいた。現在の綾瀬川は、古綾瀬川に対して「新綾瀬川」とも呼ばれた。

以上は、長島村の名主であった内山家の古文書の解説を進める中で判明したものである。

五才川や新川沿いにあった岩槻道

五才川筋に沿って見られる道は、「岩槻道」と呼ばれる古道である。地元では「往還」とも呼ばれた。東は新川筋に沿って伸びている。江戸時代は、新川（古綾瀬川）の左岸（北側）に沿って岩槻道があった。さらにその先は、現在の槍先（やりちやき）通り、旧出羽掘の右岸、そして蒲生橋で日光街道（現在の蒲生茶屋通り）と合流した。

今でも名残を残す岩槻道

昔の名残が現在にまで残る岩槻道が、内山家のそばにある。内山家の西隣には五才川に架かる大堰橋があり、その大堰橋より五才川筋に沿って北に伸びる農道が岩槻道である。現在は、かつての岩槻道と打って変わって、人影が全く見られない寂しい道となっている。江戸時代の名残を残す古道として、後世に残したいものである。

今はなき不動道

加藤 幸一

越谷市内には、昔から有名な「大相模の不動尊」（大聖寺）がある。江戸時代、広範囲にわたる村々からの多くの参詣客で賑わった寺院で、この不動尊に通じる道が「不動道」（ふどうみち）と呼ばれていたのである。

主な不動道を三つあげると次のとおりである。

1. 旧日光街道の茶屋通りから始まる不動道

蒲生の茶屋通りに「是（これ）より大さかミ（大相模）道」（不動道）と記された道しるべの石塔がある。この地点から不動道が始まっている。道なりに行くと蒲生の光明院や登戸の報土院の前を通り、さらに北に進む。しかし、登戸宮前通りの手前の産業道路あたりから葛西用水に架かる西方村の流橋（ながればし）までの不動道は、失われている。

流橋から不動尊までの不動道は今も残っている。ここで言う流橋は、現在の流橋の少し上流に架かる人が通れる程の橋をさす。この橋は、現在、通行禁止となって残されている。

2. 日光街道の三軒茶屋から始まる、失われた不動道

三軒茶屋とは、現在の南越谷駅周辺である。登戸宮前通りと日光街道との交わった常陽銀行のそばには、かつて「大さがみふどうそん」と記された道しるべの石塔があった。現在は、不動尊に移されている。しかし、本来の設置場所は、現在の南越谷駅北東の日光街道の東側路傍にあったと推定できる。そこが日光街道から不動尊へ通じる入口であったのである。この不動道は、流橋まで続いていたが、現在はすべて失われて、名残は全くない。

3. 増林の古利根川の「ばば渡し」から始まる不動道

千代田橋（旧称、二子曾根橋）そばに、「ばくわたし」（ばば渡し）と「ぶどふみち」（不動道）との文字が刻まれている道しるべの石塔がある。ばば渡しは、古利根川にある渡し場である。このばば渡しから南進し、不動橋を渡り不動尊に通じる不動道があったのである。現在は、その道のほとんどが失われている。

「越谷市内の不動道の道標」

1. 不動明王像付き道標

茶屋通り神谷家（蒲生一―五―一）路傍



2. 道標石塔

植竹家（場所三一―六―一四）邸内



3. 道標付き文字庚申塔

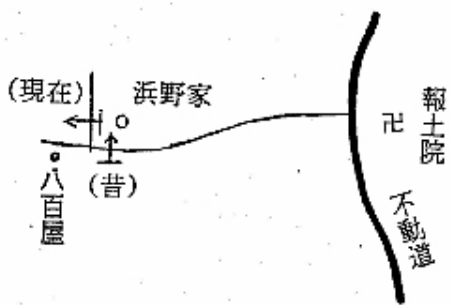
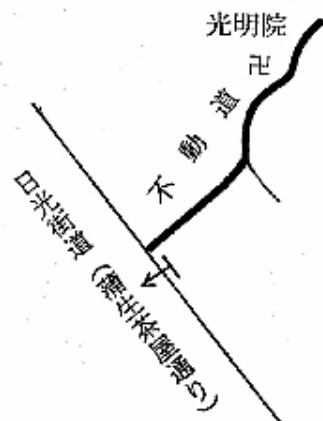
〔側面〕



庚申の年 庚申の年 庚申の年
庚申の年 庚申の年 庚申の年
庚申の年 庚申の年 庚申の年
庚申の年 庚申の年 庚申の年
庚申の年 庚申の年 庚申の年
庚申の年 庚申の年 庚申の年

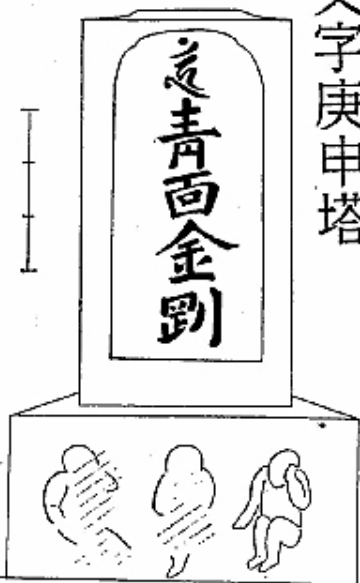
不動道

浜野家（登戸二六―四〇）路傍



4. 道標付き

文字庚申塔



〔側面〕

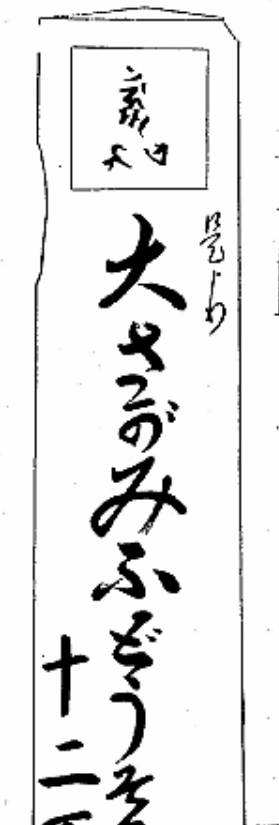
宮前通りと八潮越谷線の交差点

〔側面〕

是日光道中
二かや

5. 『不動尊』道標石塔

大聖寺



6. 道標付き文字庚申塔

閻魔堂橋

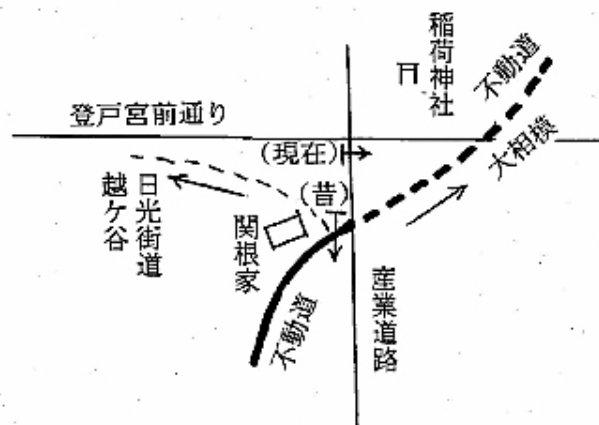
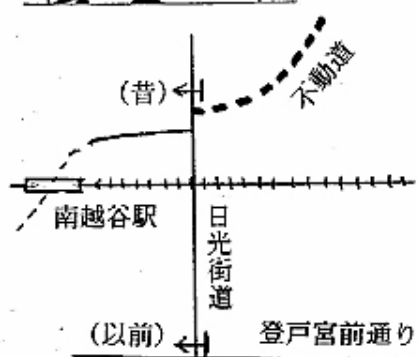
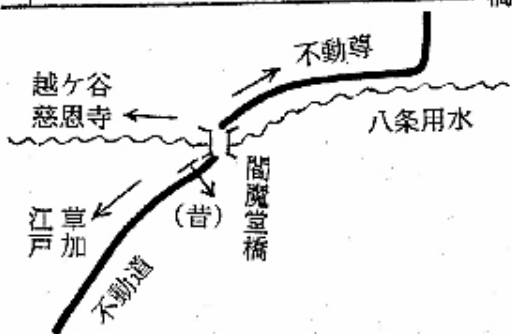
〔側面〕

西 おおん
あかや
北 ふどう尊

青面金剛

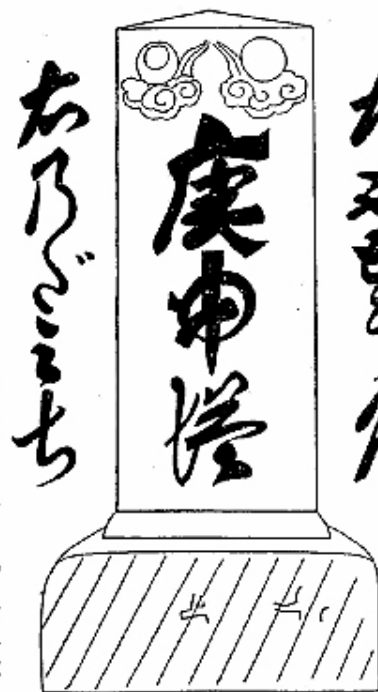
〔側面〕

南 草加
江戸

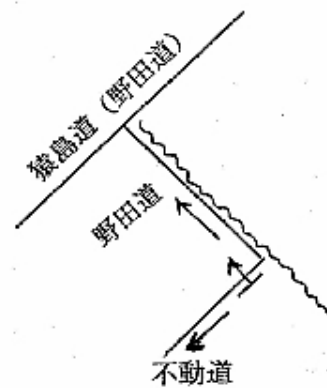


7. 道標付き文字庚申塔

九むじろり乃



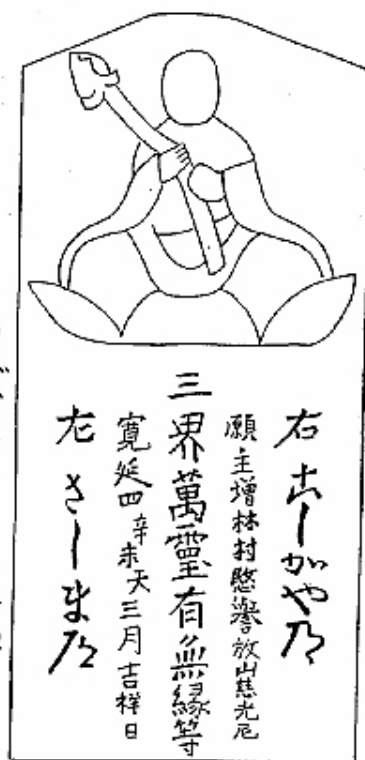
平野家「増林二二七〇」そば十字路



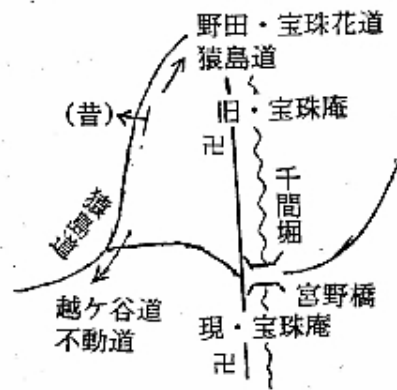
8. 道標付き三界万霊塔

ふさう乃

定使野共同墓地

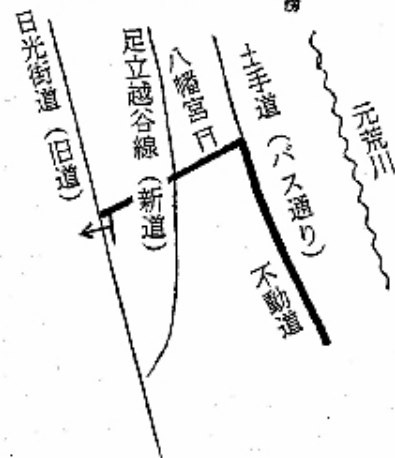


のたはうし花乃



9. 不動明王像付き道標石塔

瓦管根淵井に出る手前の吉川道路跡



10. 道標付き文字庚申塔

築輪家「越谷中町八一〇」



〔側面〕

〔側面〕

〔裏面〕

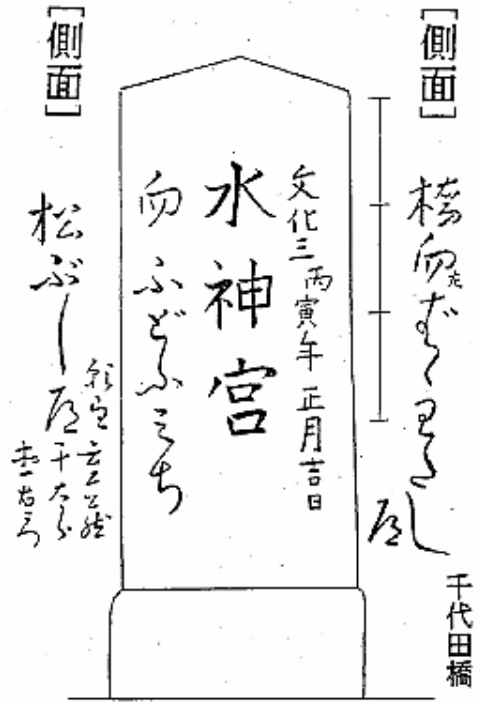
11. 道標付き不動明王及び馬頭観音像



〔側面〕

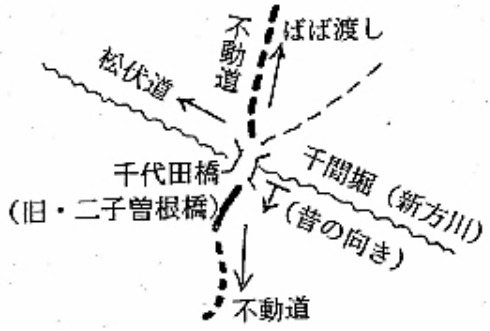
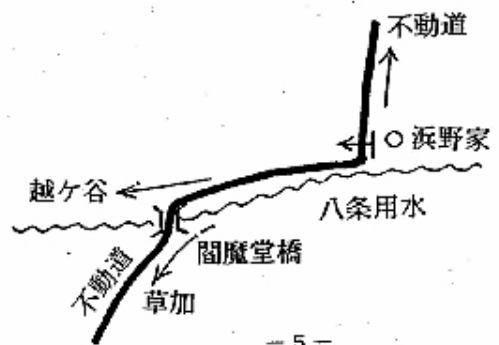
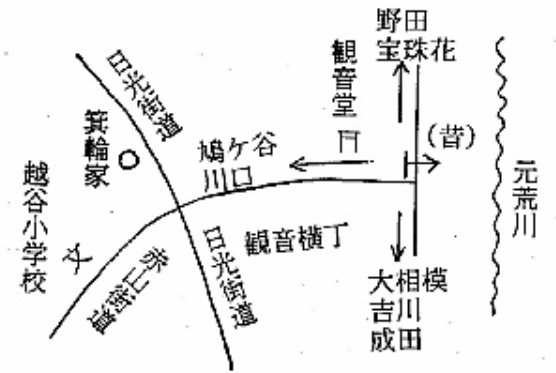
〔側面〕

12. 道標付き「水神宮」文字塔



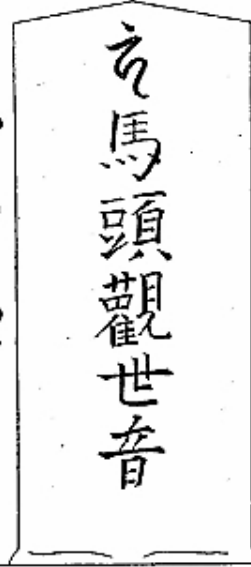
〔側面〕

〔側面〕



13. 道標付き「馬頭観音」文字塔

〔側面〕 こゝかや

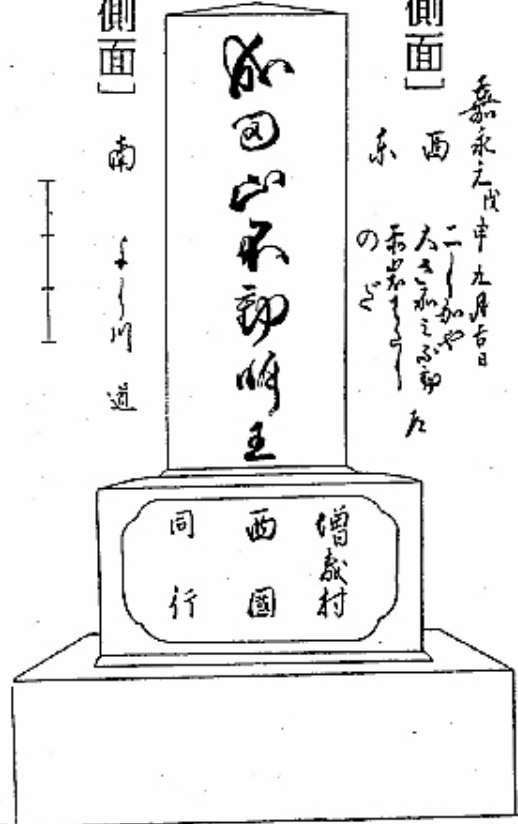


〔側面〕 不動乃

城ノ上稻荷神社

14. 道標付き「不動明王」文字塔 薬師堂

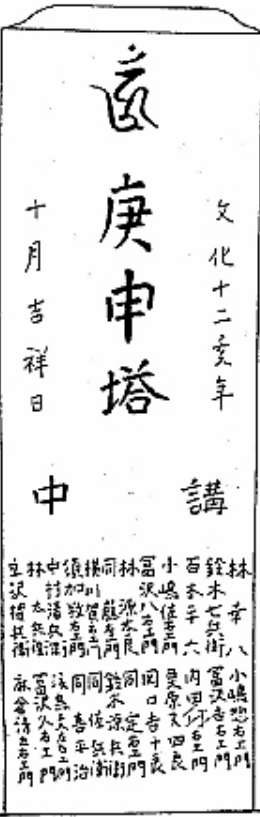
〔側面〕 西 二ノ加や
東 人ノ加や
南 不動明王
北 不動明王



〔側面〕 南 下ノ川道

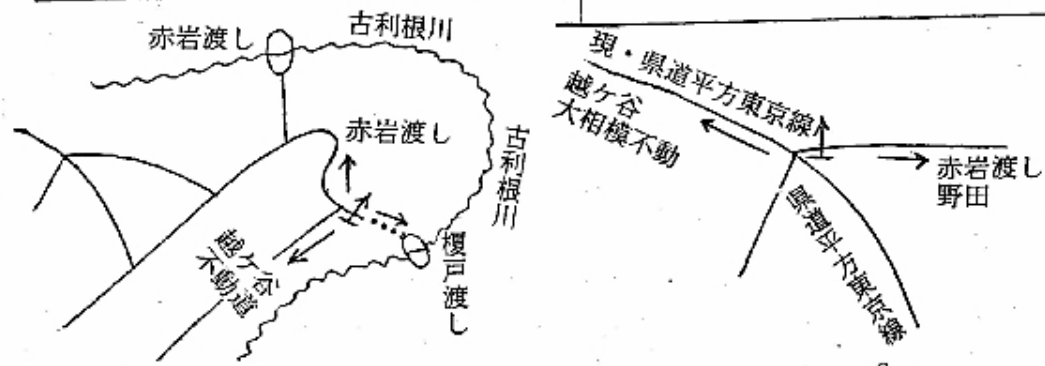
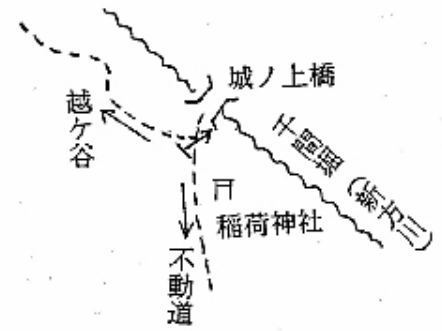
15. 道標付文字庚申塔越ヶ谷

〔側面〕 赤岩 乃乃 裏面 不動



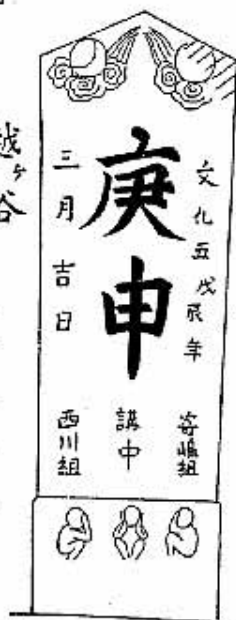
〔側面〕 據戸己ノ一

薬師堂



16・道標付き文字庚申塔 森西川集会所

〔側面〕 吉川道



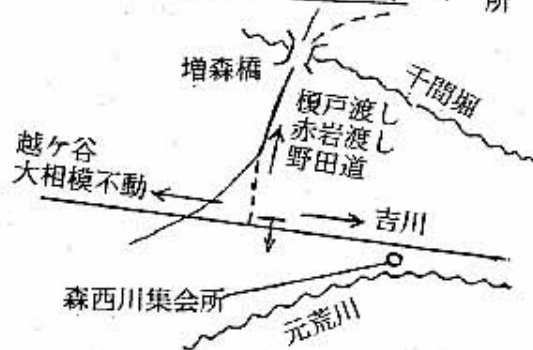
〔側面〕

越ヶ谷
大相模不動道

〔裏面〕

榎戸
赤岩
渡のたろ

本来の所在地不明の道標石塔



不明 1・道標付き文字庚申塔

〔側面〕

吉川道
ふとろ
0
30
cm

東小林香取神社



〔側面〕

越ヶ谷
岩つき
道

不明 2・道標付き文字庚申塔

〔側面〕

みぎ
大相模ふとろ
あし
かやま

中新田の稲荷神社



不明 3 道標付き文字庚申塔

中村家(東町二一八六)路傍

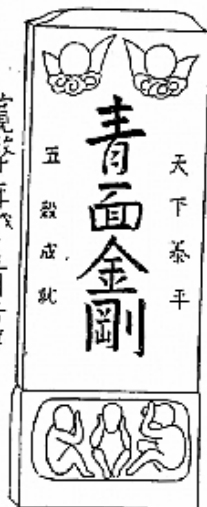
〔側面〕 西ふぶとう乃



〔側面〕 南そうか乃

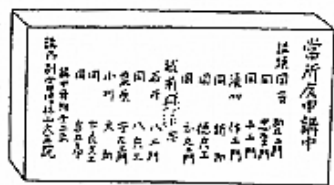
不明 4 道標付き文字庚申塔 勝林寺

〔側面〕 己たふ乃



〔側面〕

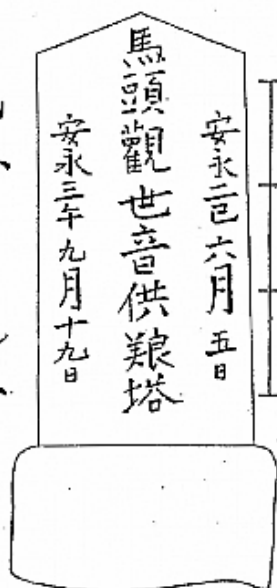
ふぶとう乃



不明 5 道標付き「馬頭観音」文字塔

岡安家[増林二一三六九]路傍

〔側面〕 古こーか乃



〔側面〕

古こーか乃

「越谷市内の不動道の道標・解説編」

旧日光街道の茶屋通りから始まる不動道

不動道は、茶屋通り（日光街道）の「大相模道（不動道）」の道標石塔のある地点、つまり日光街道沿いの不動道の入口から始まり、蒲生の光明院の前を通って北進し、蒲生一五―二五の手前で西に曲がり、稲荷神社（地元では、茶の木が周囲にあったので、俗称「茶稲荷」と呼ばれた）の西側を通過して、現在の県道柿ノ木・蒲生線を越え、積竹家「蒲生三一―六一―四」の西側を通り、その後は北進し、突き当たりの関根家（登戸一九―二〇）で北東に進み、登戸の稲荷神社の東側を通過して、葛西用水沿いに北進して、流橋（ながればし）から大相模の不動尊（大聖寺）へと進む道である。

不動道1 所在地 茶屋通り（日光街道）神谷家「蒲生一―五―一」路傍（西向き）

〔正面〕是より大さかみ道（是より大相模道）

※日光街道のこの地点から日光街道から分かれて北東に進む不動道で、不動尊に通じる。

不動道2 所在地 植竹家「蒲生三一―六一―四」邸内（本来は道路に面していた）

※江戸時代は、大相模の不動尊に通じる大相模道（不動道）の、蒲生三一―二七と三一―二五の間の路傍（南向き）にあったと推定できる。

〔正面〕是より左大さかみ道（是より左・大相模道）

※道なりに行かずに、茶稲荷の手前を左に折れて北進すると、不動尊に通じる。

不動道3 所在地 浜野家「登戸二六―四〇」路傍

※本来は、この道路の反対側に北向きに置かれていたと推定できる。

〔右側面〕ふどう道（不動道）

※この道を東進すると、報土院の前に出る。そのT字路を北進する。途中でこの道は途切れてしまい、それから先の道は現在存在していないが、江戸時代は流橋に通じる道があり、不動尊に通じていた。

不動道4 所在地 宮前通りと八潮越谷線の交差点

（本来の所在地は登戸一四―二〇の関根家東側の不動道路傍（南向き））

※この石塔は、もとは登戸一四―二〇の関根家東側にあった。

関根家南側にある北東から南西に走る斜めのわずかな道路（長さ十五メートル）は古道（不動道）の跡で、その古道の南側路傍（産業道路の東側歩道地点、現在の登戸一―四七）にあったという。

この古道は、蒲生の茶屋通りの不動道入口（奉行地）から続く道である。

〔左側面〕是ヨリ 大さかみ（大相模）道

※北東の方向に進むと、不動尊に通じる。

〔右側面〕是ヨリ 日光道中

こしかや（越ヶ谷）

※この石塔から西進する道がかつてはあったと思われる。その道を西進すると日光街道に合流し、北進すれば越ヶ谷に通じる。

日光街道の二軒本屋か、り始まる不動道

次にあげる不動道5の道しるべは、もとは日光道中に面した南越谷一四一八〇の角地にあったもので、後に宮前通り向かい側の南越谷一四一三八の常陽銀行の角地に移り、さらに大聖寺境内の東門通りに移転してきた。現在の場所、東門の外への移転は、平成十六年七月である。

しかし江戸時代には、日光街道沿いの、かつての不動道の入口（現、南越谷駅北東の南越谷二一四一三一あたり）に西向きに置かれていたと思われる。この不動道は流橋（ながればし）を通過して不動尊に通じていた。流橋のすぐ上流に架かる使用禁止の橋は、昔の不動道の名残の旧・流橋である。

不動道5 所在地 大聖寺（本来の所在地は、南越谷駅北東の日光街道に面した所と推定）

〔正面〕 大きがみふどうそん□□（大相模不動尊）

十二丁

※日光街道から、不動尊に通じる道があった。

不動道6 所在地 西方の閻魔堂橋（現在は東向き、かつては南東向き）

〔左側面〕 西 ちおんじ（慈恩寺）

北 ふどうそん（不動尊）
こしかや（越ヶ谷）

※八条用水に沿って西進すると、越ヶ谷や慈恩寺に通じる。

※閻魔堂橋を渡って八条用水に沿って東進して、すぐに北進すると、不動尊に通じる。

〔右側面〕 南 草加道
江戸

※南西に進むと、草加や江戸に通じる。

不動道7 所在地 平野家「増林二二七〇」そば十字路（西向き）

〔左側面〕 左ふどう道（左・不動道）

※南進すると、千間堀の宮野橋を渡って直進し、猿島道に合流し、不動尊に通じる。

〔右側面〕 右のだみち（右・野田道）

※用水路沿いに西進すると、野田（猿島）道に合流し、野田に通じる。

不動道8 所在地 定使野共同墓地（本来の所在地は猿島道沿いにあった（西向き）と推定）

〔左側面〕 ふとう道（不動道）

※猿島道を南進すると、越ヶ谷や不動尊に通じる。

〔正面〕 右こしがや道（右・越ヶ谷道）

左さしま道（左・猿島道）

〔右側面〕 のだほうし花道（野田・宝珠花道）

※猿島道を北進すると、野田、宝珠花、猿島に通じる。

不動道9 所在地 吉川道の路傍南側「瓦曾根一―二―三二」(西向き)

〔日光街道より吉川に分かれる地点に設置された道標である〕

〔正面〕是より大きき道(大相模道)

※北東に進み、瓦曾根溜井に突き当たって吉川道を東進すると不動尊に通じる。

不動道10 所在地 箕輪家「越ヶ谷中町八一二〇」邸内(本来の所在地は別の所)

〔本来の所在地は、現在の越谷市役所(元荒川の河川敷)の西側にある土手道(日光街道ができる前は、この道が奥州道と推定)に面した、越ヶ谷5丁目の観音堂の当時の境内東端の道路に面した地点(現、越ヶ谷五―三―五六)に東向きにあったと推定)〕

〔左側面〕このかたのた(野田)道

此方 ほうしゆはな(宝珠花)

※北進すると、野田や宝珠花に通じる。

〔右側面〕

大きがみ(大相模)

此方 よし川(吉川)道

なりた(成田)

※南進すると、大相模の不動尊や遠くは成田山(新勝寺)に通じる。

〔裏面〕 此方 はとがや(鳩ヶ谷)道

かわくち(川口)

※西進すると、日光街道を横断し、赤山道(鳩ヶ谷道)を通過して鳩ヶ谷、川口に通じる。

不動道11 所在地 西方の浜野家「相模町二―二―二三」の角(西向き)

※「馬頭観(ばとかん)」との屋号のある浜野家の角にある。

なお、馬頭橋は平成四年に架けられたもので、それ以前はなかった。

〔左側面〕 草加迄二里

越ヶ谷迄十二丁

※西進すると、越ヶ谷や日光街道に出て草加に通じる。

〔右側面〕是より 不動尊道

左

※北進すると、不動尊に通じる。

古利根川の「ばば渡し」から始まる不動道

「ばば渡し」は増林村と対岸の上赤岩村を結ぶ古利根川にかかる渡しであった。

「ばば渡し」の「ばば」は、耳で聞くと「婆」を連想してしまう。そのためか、単に

「渡し場」、あるいは地元が中組なので「中組の渡し場」ともいう。「ばば渡し」の

「ばば」の由来は不明である。「婆さんが渡し場にいたから」との言い伝えもあるが、

もともとは「馬場」という意味だったのであろう。

千代田橋(旧称、二子曾根橋)そばに道標(道しるべ)が刻まれた石塔がある。

その石塔に、ばば渡し道、不動道、松伏道の文字が刻まれている。もとは、新方川が

拡張される以前の千代田橋(旧称、二子曾根橋)の南東側旧土手の上にあった。

この石塔に刻まれている「橋向左ば、わたし(橋向こう左、ばば渡し)」とは、橋

(二子曾根橋)の向こうの道が古利根川にある「ばば渡し場」に通じる道であること
を示している。橋を渡るとすぐに分かれ道(今はない)になっているが、向かって左
の道(今はない)を多少蛇行しながら真北に進んで行く。するとかつての古道に突き
当たる。それを左に曲がる。すると間もなく現在の新道(平方東京線)と合流する。
さらに六十メートル先に進み、右に曲がり古利根川に通じる道を進む。突き当たりの
土手が渡し場跡で、向かって左側あたりが渡し守りの人がかつて住んでいた所である。
渡しは、戦後のカスリン台風が関東を襲った昭和二十二年頃まで行われていた。
また「向ふどふみち(向こう、不動道)」とは、橋を渡らずに南に向かう道が不動尊
に通じる道を示している。今もその名残の道が一部ある。この不動道を道なりに行く
と突き当たりが百木家となる。このT字路を右に曲がって西に向かい、元荒川に架か
る不動橋を渡る。昭和三十一年に不動橋が架かるまでは「不動の渡し」があった所
である。明治十三年の地図を見ると橋が架かっていたことがわかる。江戸時代は頻繁に
見られた参詣のためにも行き来する橋は欠かせなかったであろう。東に向かうと、
森西川(もりにしかわ、増森村西川)や吉川に通じる。

不動道12 所在地 増林の千代田橋(旧・二子曾根橋)そばで南向きであったと推定

〔左側面〕橋向左ば、わたし道(橋向こう左・ばば渡し道)

※二子曾根(ふたごそね)橋の先の二手に分かれる内の左側の道は「ばば渡し」に通じる。

〔正面〕 向ふどふみち(向こう・不動道)

※南進して、元荒川に架かる橋を渡って不動尊に通じる。

〔右側面〕松ぶし道(松伏道)

※千間堀に沿って西進して猿島道に出てから松伏に通じる。

不動道13 所在地 城ノ上稻荷神社(本来の所在地は神社そばにあった(北東向き)と推定)

〔左側面〕こしかや(越ヶ谷)

※かつては、西進して越ヶ谷の久伊豆神社東側に通じる道があった。

〔右側面〕ふ動道(不動道)

※かつては、南進して元荒川に架かる橋を渡って不動尊に通じる道があった。

不動道14 所在地 薬師堂(本来の所在地は増森一―二二のそば三差路(北向き)と推定)

〔左側面〕西 こしかや(越ヶ谷)

大さかみ不動(大相模不動) 道

東 赤岩わたし(赤岩渡し)

のだ(野田)

※西進すると、不動道を通して不動尊や越ヶ谷に通じる。

※東進すると、赤岩渡しやその渡しを渡って野田に通じる。

〔右側面〕南 よし川(吉川) 道

※南進すると、遠回りだが古利根川の中島の渡しを渡って吉川に通じる。

不動道15 所在地 薬師堂(増森一七二四一)の北東角地周辺にあった(北東向き)と推定)

〔裏面〕 越ヶ谷
不動道

※南西に進んで千間堀を渡り、不動尊や越ヶ谷に通じる。

〔左側面〕 赤岩わたし道(赤岩渡し道)

※かつては北西に進む道があって、古利根川にかかる赤岩渡しに通じる。

〔右側面〕 榎戸わたしミチ(榎戸渡し道)

※南東に進むと、古利根川(現在は無い)にかかる榎戸渡し(さんこう渡し)に通じる。

不動道16 所在地 森西川集会所(本来の所在地は増森五二五の路傍(南向き)と推定)

〔左側面〕 吉川道

※東進すると、古利根川の中島の渡しを渡り吉川に通じる。

〔右側面〕 越ヶ谷
大相模不動道

※西進すると、不動尊や越ヶ谷方面に通じる。

〔裏面〕 榎戸
赤岩 渡のた(野田)道

※北進すると、増森橋を渡って古利根川の榎戸渡しや赤岩渡し、さらに野田に通じる。

不動道(不明1) 所在地 東小林の香取神社(本来の所在地は不明)

〔左側面〕 吉川道
ふどう(不動)道

〔右側面〕 越ヶ谷
岩つき(岩槻)道

不動道(不明2) 所在地 越巻の中新田の稲荷神社(本来の所在地は不明)

〔左側面〕 みぎ
大相模ふどうそん(不動尊)ミチ(道)
こしかや(越ヶ谷)

不動道(不明3) 所在地 南百の中村家(東町二一八六)路傍(本来の所在地は不明)

〔左側面〕 西 ふどう道(不動道)

〔右側面〕 南 そうか道(草加道)

不動道(不明4) 所在地 増林の勝林寺(増林村内の不動道のどこかにかあった(東向き))

〔左側面〕 わたしバ道(渡し場道)

※不動道を北進すると、古利根川の「ばば渡し」に通じる。

〔右側面〕 ふどう道(不動道)

※不動道を南進すると、元荒川を渡って不動尊に通じる。

不動道(不明5) 所在地 増林の岡安家(増林二二三六九) (本来の所在地は不明)

〔左側面〕 右こしかや道(右・越ヶ谷道)

〔右側面〕 左ふとうそん道(左・不動尊道)

今はなき不動道

-- 地図編 --

— おもな不動道

▬▬▬ 今はなき不動道

— 古道

⋯⋯ 今はなき古道



平成17年3月、越谷市広報広聴課発行の「こしがや案内図」(第30号)を使用して作成しました。

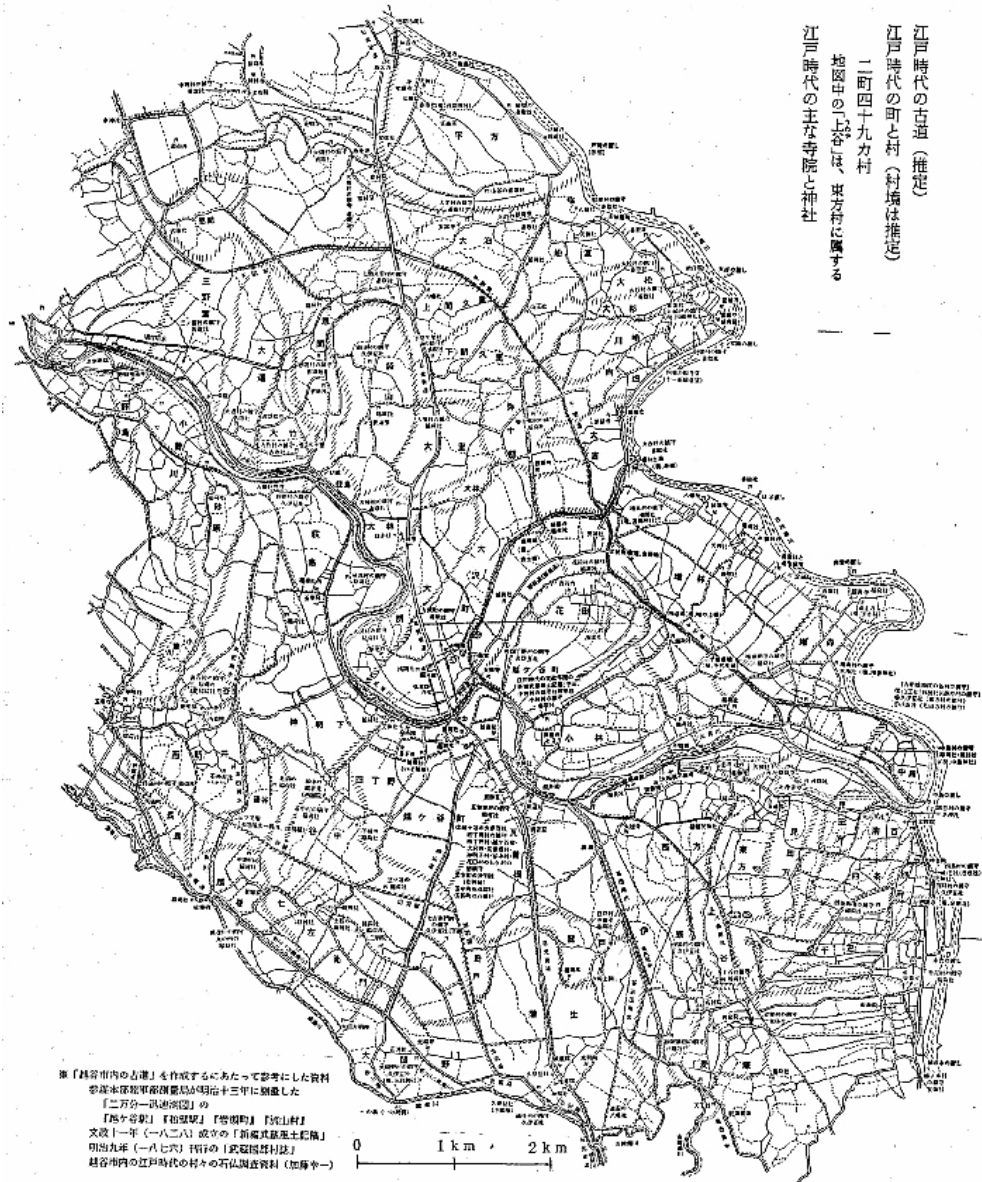
また古道については、明治十三年測量の「2万分1フランス式色彩地図」(日本地図センター発行)

などを参考にして推定して描いたものです。

平成19年9月16日 加藤 幸一

越谷市内の古道

江戸時代の古道（推定）
 江戸時代の町と村（村境は推定）
 二町四十九方村
 地図中の「七」は、東方村に属する
 江戸時代の主な寺院と神社



本『越谷市内の古道』を作成するにあたって参考にした資料
 参謀本部陸軍部測図部が明治十三年に編成した
 『二万分之一尺の縮図』の
 『西ヶ谷郷』『柏原郷』『惣領郷』『宮山村』
 文政十一年（一八二八）成々の『新編武蔵土産図』
 明治九年（一八七六）刊行の『武蔵郡村誌』
 越谷市内の江戸時代の村々の石仏調査資料（加藤幸一）